



News Release

バイエル薬品株式会社
広報本部
〒530-0001
大阪市北区梅田 2-4-9
TEL 06-6133-7333
www.bayer.co.jp/byl

CKD(慢性腎臓病)ステージ4・5の患者さんを対象とした

「保存期 CKD における意識調査」結果発表

- 94.8%の患者さんが透析治療を受けることに不安
- 腎移植や透析に至らないための情報や指導を求めている患者さんは 8 割
- 脳・心血管疾患のリスク因子「高リン血症」の認知度は 50.9%
- 受診する診療科によって患者さんの意識に差、非専門医の役割の大きさが浮き彫りに

大阪、2013年11月19日 — バイエル薬品株式会社(本社:大阪市、代表取締役社長:カーステン・ブルン、以下バイエル薬品)は、慢性腎臓病患者さん(CKD ステージ 4・5)を対象に「保存期 CKD における意識調査」を行いました。

本調査から、CKD 治療を受けている患者さんの 94.8%が、腎機能の悪化によって透析に至る不安を抱えながら治療を受けていることが分かりました。実際、9 割以上の方が透析導入を遅らせるために栄養管理や運動などに積極的に取り組んでおり、腎移植や透析に至らないために、約 8 割の方が情報や指導を求めています。

また、CKD 患者さんが、どの診療科で治療を受けているかによって、疾患についての知識や治療に対する取り組みに差があることが分かりました。腎臓専門医に通院治療をしている人は他の診療科に比べて、栄養管理への取り組みが積極的で、脳・心血管疾患のリスク要因である「高リン血症」への認知が高い傾向がみられました。加えて、実際に栄養指導を受けている人、とりわけ、透析導入を遅らせるためにたんぱく制限に取り組んでいる患者さんも、腎臓専門医の治療を受けている人の方が圧倒的に多くみられました。我が国の CKD 患者数は 1,330 万人に達し、成人の 8 人に 1 人が CKD と言われています¹。本調査でもみられたように、CKD 患者さんの治療には腎臓専門医だけでなく非専門医が診療にあたることが多く、CKD の治療における課題も少なからずありそうです。より適切な治療、課題の解決のためには、腎臓専門医と非専門医の連携がいかに重要であるかが、改めて認識されました。

¹社団法人日本腎臓病学会「CKD 診療ガイド 2012」

保存期 CKD における意識調査

< 調査概要 >

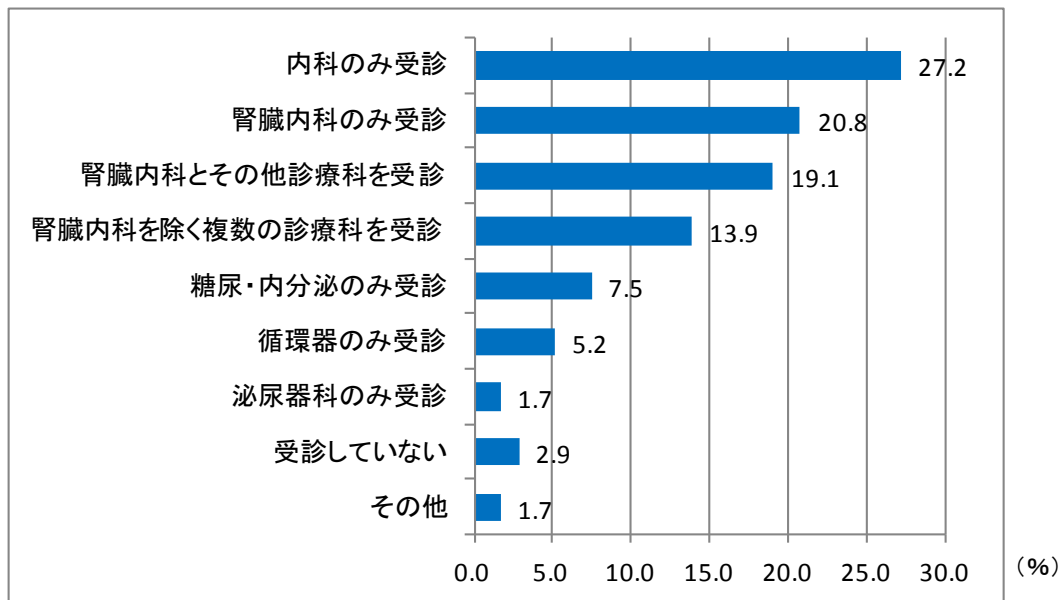
- 調査対象 クレアチニン値の回答により、ステージ 4、もしくは 5 と想定される人を抽出
- 調査方法 インターネット調査
- 有効回答 173 人
- 調査期間 2013 年 10 月 11 日(金)～2013 年 10 月 21 日(月)

< 調査結果の要約 >

1. 6 割の CKD 患者さんが腎臓内科以外の非専門医で治療、大きな役割を担う非専門医

CKD 患者さんが治療のために受診しているのは、「内科のみ」で最も多く 27.2%、次いで、「腎臓内科のみ (20.8%)」、「腎臓内科とその他診療科 (19.1%)」の順でした。腎臓内科(専門医)で治療を受けている人は併せて 39.9%で、この結果から 6 割が非専門医で治療を受けており、非専門医(腎臓内科以外)が CKD 患者さんの治療において大きな役割を担っている現状が垣間見えます。

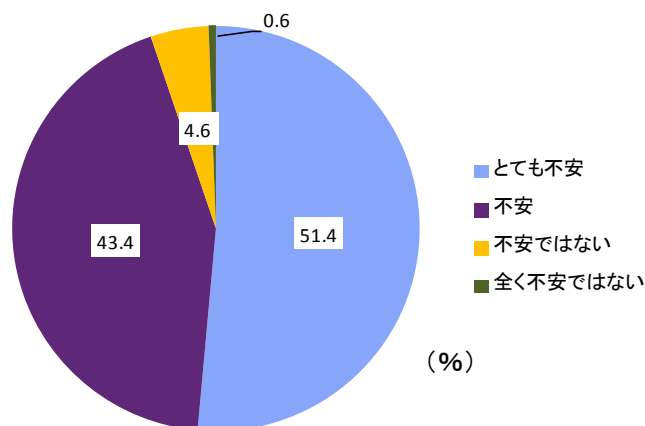
Q 現在通院中の診療科があれば、全てお選びください。 (n=173 複数回答)



2. 94.8%のCKD患者さんが、将来の透析治療に不安

「将来、透析治療を受ける必要があるかと言われたら？」という質問に対して、「とても不安(51.4%)」「不安(43.4%)」と回答した人は併せて94.8%。9割以上の患者さんが将来の透析治療に不安を感じていることが分かりました。

Q.将来、透析治療を受ける必要があると言われたら不安ですか？ (n=173)

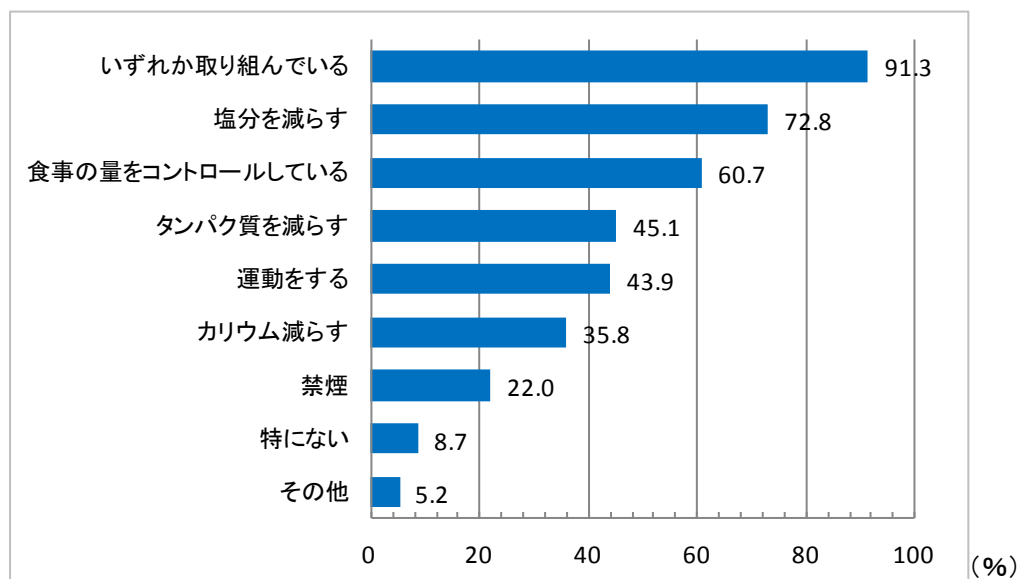


3. 91.3%のCKD患者さんが透析導入を遅らせるために、薬物治療以外の取り組みを実施。

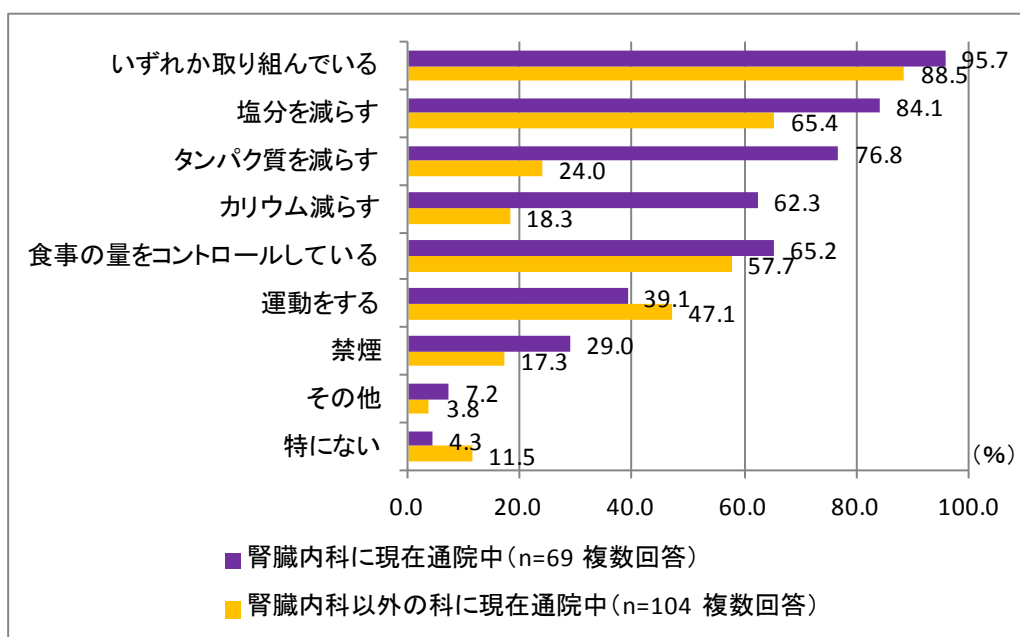
腎臓内科(専門医)で治療を受けている人に栄養管理に対する積極的な姿勢

薬物治療以外で透析を遅らせるために取り組んでいることがあると回答した人は9割に及びました。具体的には、「塩分を減らす」(72.8%)、「食事の量のコントロールをしている」(60.7%)、「タンパク質を減らす」(45.1%)と上位3つが栄養に対する取り組みであることが分かりました。この結果を診療科別にみると、専門医で治療を受けている人は、栄養管理に積極的な姿勢がうかがえます。特に、タンパク質やカリウムへの取り組みについては、非専門医で治療を受けている人との大きな違いがみられました。

Q.透析導入を遅らせるために、薬物治療以外にご自身が取り組まれていることは？ (n=173 複数回答)



Q.透析導入を遅らせるために、薬物治療以外にご自身が取り組まれていることは？（診療科別）

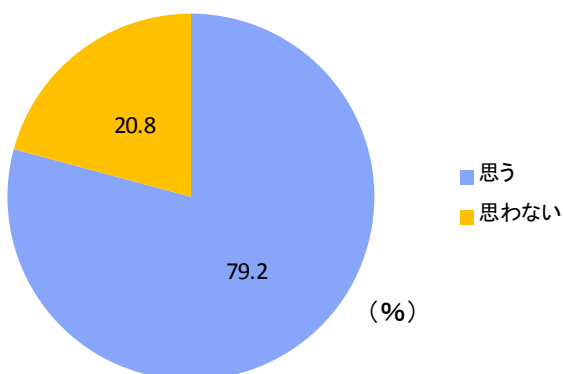


4. 8割のCKD患者さんが、腎移植や透析に至らないための情報や指導を希望

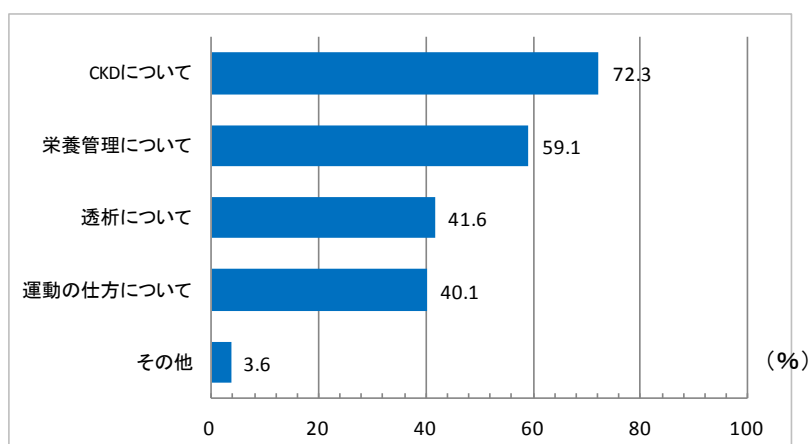
一番求めているのは、「CKDについての情報」、次に「栄養管理について」

9割以上の方が透析導入を遅らせるために薬物治療以外の取り組みをしているなか、腎移植や透析に至らないための情報や指導を必要としている人は8割で、そのうちの7割が、「CKDに関する情報」を求めています。このことから、疾患についての情報も十分とはいえない現状がうかがえます。

Q.腎移植や透析に至らないために、もっと情報や指導が欲しいと思いますか？ (n=173)



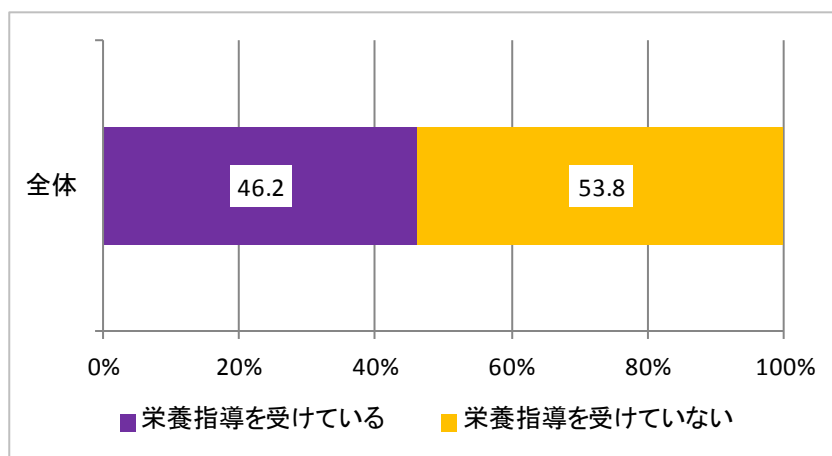
Q.どのような情報や指導を希望しますか？ (n=137 複数回答)



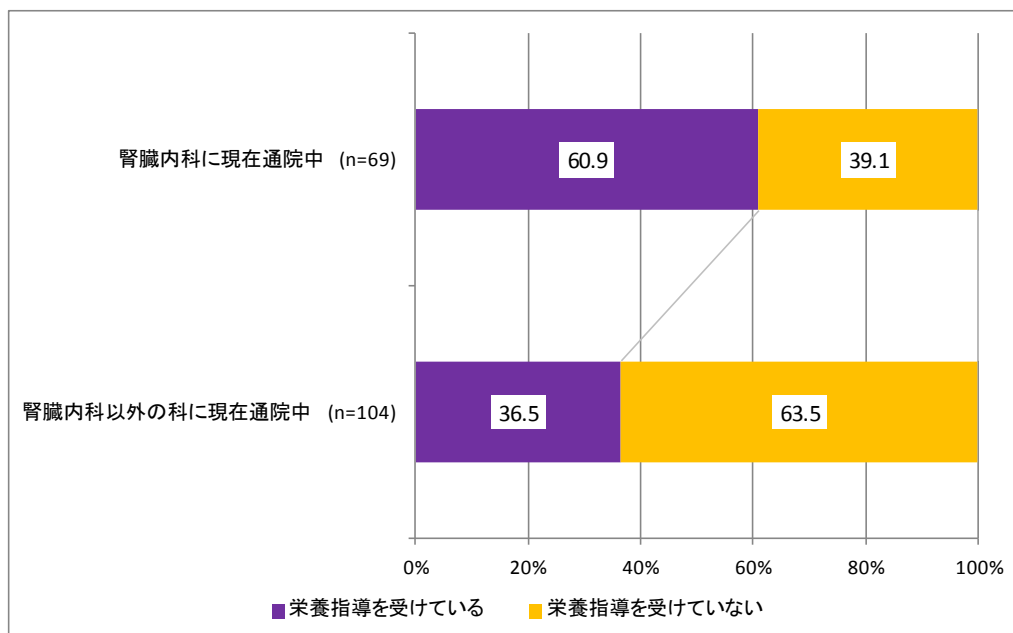
5. 栄養指導を受けているCKD患者さんは5割未満、治療を受けている診療科により大きな違い

9割以上のCKD患者さんが透析に至ることに不安を感じているなか、実際に栄養指導を受けているCKD患者さんは5割に満たないことが分かりました。診療科別にみると、専門の腎臓内科で治療を受けているCKD患者さんの60.9%が「栄養指導を受けている」一方、それ以外の診療科の患者さんでは36.5%という結果でした。専門の診療科で治療を受けているかどうかにより、栄養指導を受けている割合に大きな違いがあることが分かりました。

Q.栄養指導を受けていますか？ (n=173)



Q.栄養指導を受けていますか？ (診療科別)

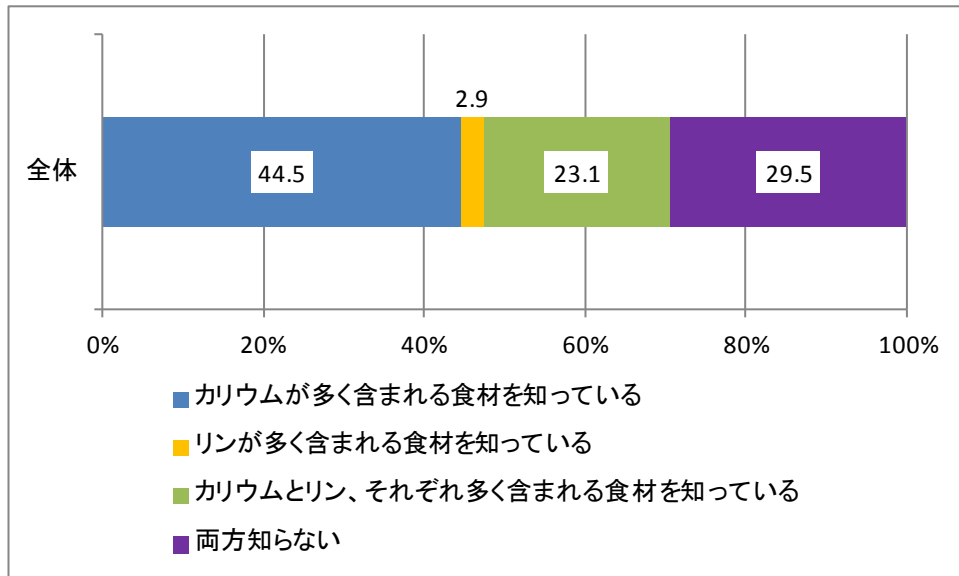


6. 栄養指導を受けているかどうかで差がでる、食材や栄養素についての知識

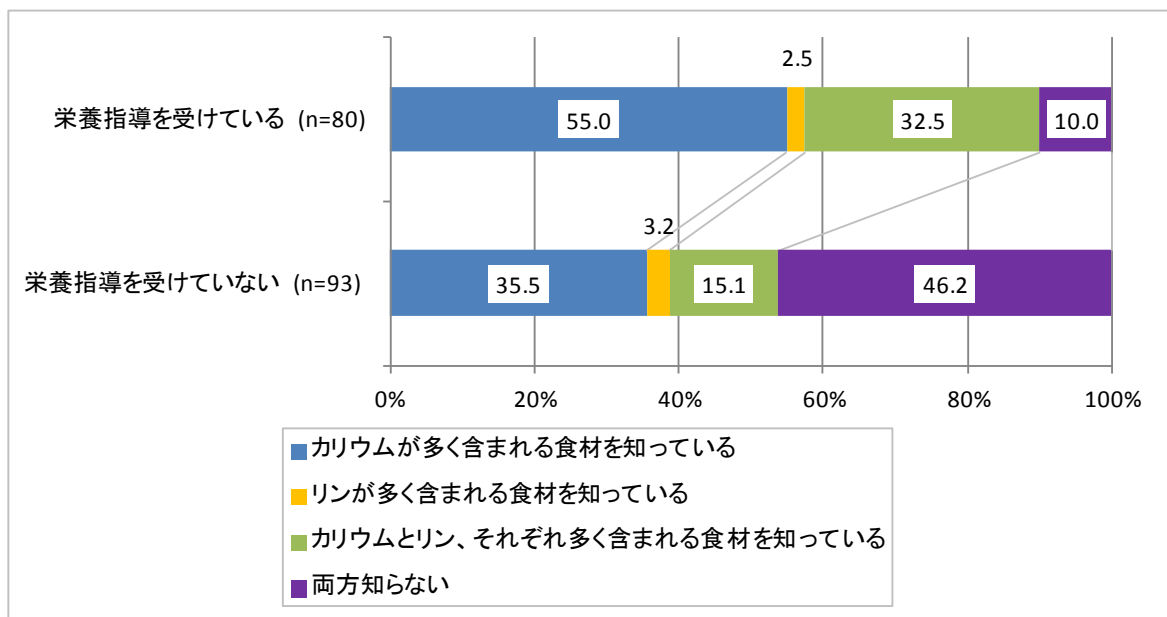
聞き慣れないカリウムやリン。透析導入を遅らせるためにその管理を求められるCKD患者さんは少ないなか、「カリウムやリンが多く含まれている食材を知っていますか?」という質問に対して、「両方知らない」

と回答した人は約3割にも及びました。この結果を、栄養指導を受けているか否かで分けると、「栄養指導を受けている」人では10%であったのに対し、「栄養指導を受けていない」人は46.2%で、栄養指導を受けているかどうかにより、食材や栄養素についての知識に大きな差があることが示されています。

Q.カリウムやリンが多く含まれている食材を知っていますか？ (n=173)



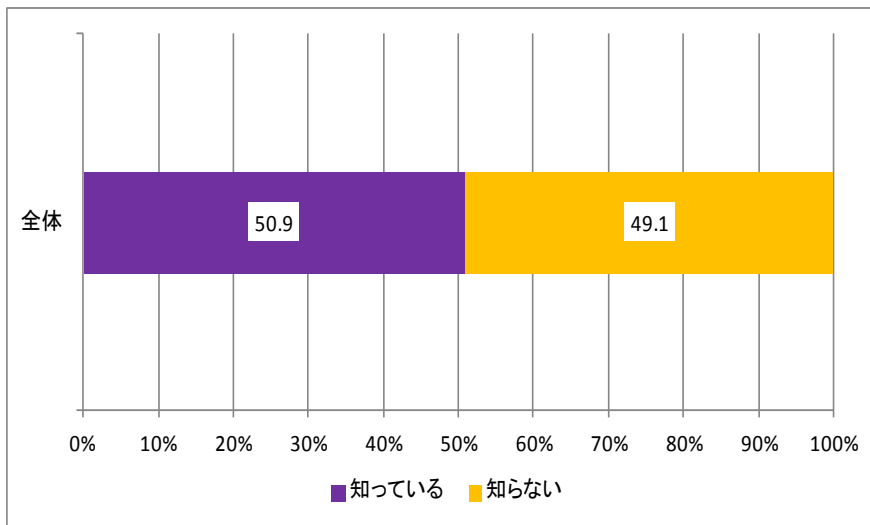
Q.カリウムやリンが多く含まれている食材を知っていますか？ (栄養指導別)



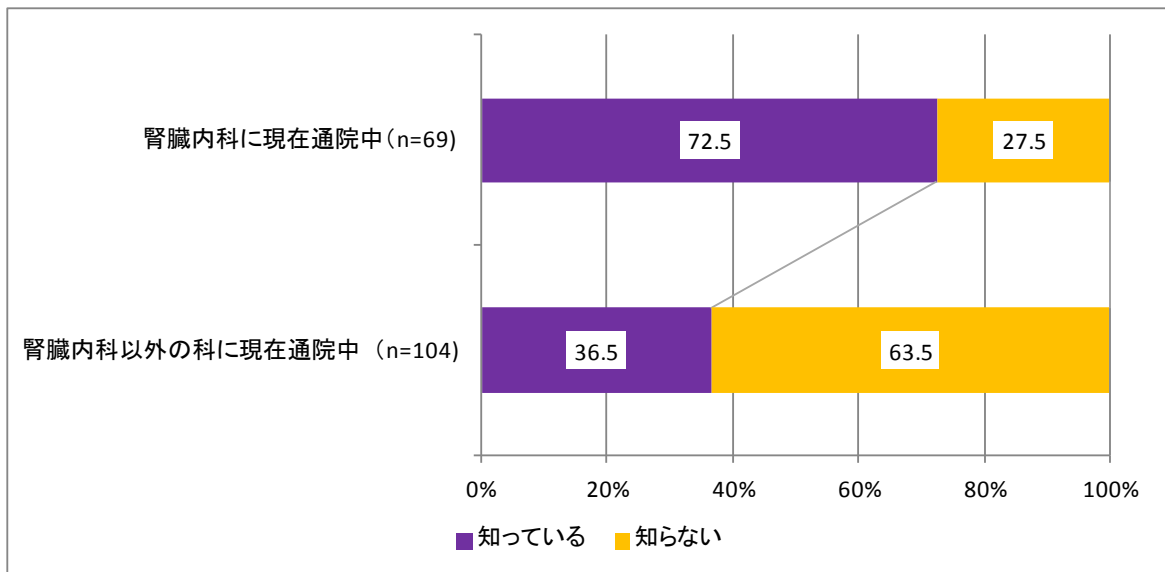
7. 高リン血症を知っている患者さんは5割、受診している診療科により約2倍の認識の差

「腎機能が悪化すると、体内にリンが溜まる(高リン血症)ことを知っていますか?」という質問に対し、「知っている」と回答した人は約半数でした。腎臓内科、もしくは他の診療科で治療を受けているどうかによって結果を比較したところ、腎臓内科の受診者では72.5%が「知っている」と回答。他の科の受診者36.5%に比べ、ここでも専門の診療科で治療を受けているかどうかで約2倍の認識の差がみられました。

Q.腎機能が悪化すると、体内にリンが溜まる(高リン血症)ことを知っていますか? (n=173)



Q.腎機能が悪化すると、体内にリンが溜まる(高リン血症)のことを知っていますか? (診療科別)

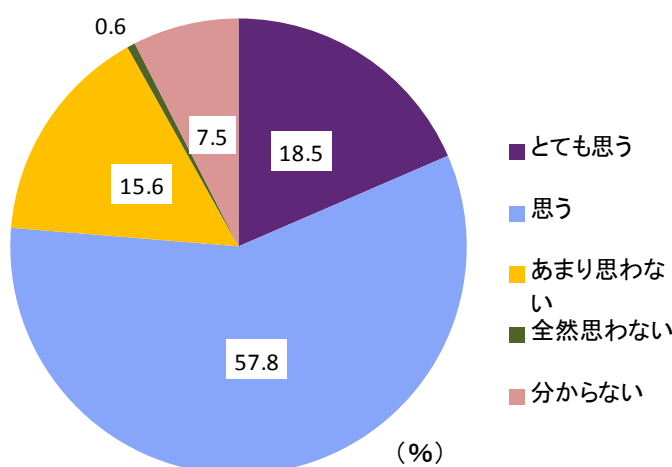


8. 高リン血症のリスクを知ることが、積極的な「リン管理」への取り組みの第一歩

高リン血症を放置したままにしておくと、脳梗塞や心筋梗塞などの脳・心血管疾患や骨がもろくなるなどの症状があらわれることを理解すれば、76.3%（「とても思う」18.5%と「思う」57.8%を併せて）が「リンのコントロール」に積極的に取り組む意向が示されました。CKD 患者さんにとって、透析への導入を遅らせるためには、疾患に関する情報や指導が不可欠であることがうかがえます。

Q.高リン血症を放置したままにしておくと、脳梗塞や心筋梗塞などの脳・心血管疾患、骨がもろくなる、といった症状が現れることがあります。

このような症状を防ぐために、リンのコントロールを積極的にしようと思えますか? (n=173)



バイエル薬品株式会社

2013年11月19日、大阪

Bayer Yakuhin, Ltd./Communications (JPN-BHC-2013-0334)

バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、ラジオロジー&インターベンショナル(画像診断関連製品)、動物用薬品(コンパニオンアニマルおよび畜産用薬品)の3事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器領域、腫瘍・血液領域、婦人科・皮膚科領域、眼科領域の4領域に注力しています。バイエル薬品は、「よりよい暮らしのためのサイエンス(Science For A Better Life)」の企業スローガンのもと、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。

バイエル薬品ホームページ: <http://www.bayer.co.jp/byl>